

7人制サッカー競技規則

2018/2019年版



日本CPサッカー協会

はじめに

本競技規則は、IFCPF（CPサッカー国際連盟）競技規則（2018.1.1から有効）を基に日本語版に翻訳したものであり、日本国内においては、日本サッカー協会競技規則（最新版）に準じ、各競技大会実施要綱に基づいて行うものとする。

競技規則に関する付記

CPサッカー（7人制サッカー）に適用されるIFAB（国際サッカー評議会）サッカー競技規則の今回の修正は、現行のIFABサッカー競技規則と合わせて参照されるものとする。現行のIFABサッカー競技規則はホームページよりダウンロード可能です：www.theifab.com

関係する各国サッカー協会の合意が得られており、また、競技規則の基本原則が保持されていれば、16歳未満の競技者、女子、年長者（35歳以上）の試合では競技規則の適用に当たって、以下の一部またはすべてに修正を加えることができる：

- 競技者数（スモールサイド形式の採用）
- 競技のフィールドの大きさ
- ボールの大きさ、重さ、材質
- ゴールポストの間隔とクロスバーのグラウンドからの高さ
- 試合時間
- 選手交代
- 複数または、全ての警告に対して一時退場

第1条 競技のフィールド

IFAB 競技規則の第1条は、下記例外を含む

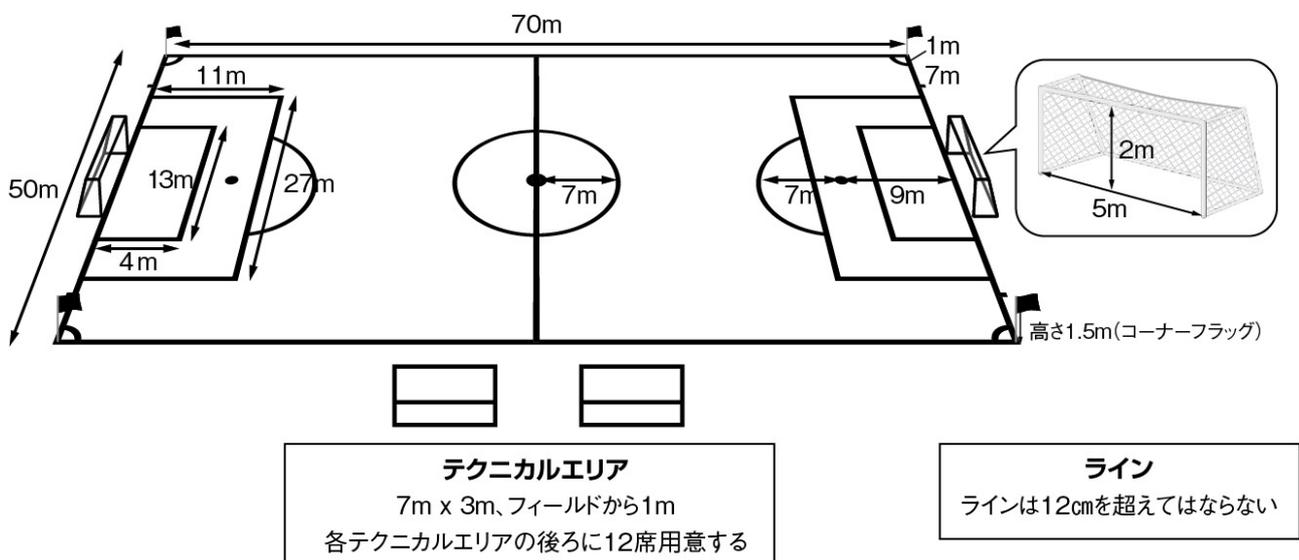
2. フィールドマーキング

センターマークは、ハーフウェイラインの中心点となり、半径7mの円がその周囲に描かれている。マークは、競技フィールドの上、ゴールラインとタッチラインへ直角に位置するコーナークから7m離して描かなければならない。

3. フィールドサイズ

4. 国際大会時のラインの長さ

- ・長さ（タッチライン）： 70m
- ・幅（ゴールライン）： 50m



5. ゴールエリア

2本のラインはゴールラインへ向かって直角に、各ゴールポストの内側から4m描かれている。ラインは、競技フィールド内へ4m、ゴールラインと平行に描かれている。これらのラインとゴールラインの範囲内がゴールエリアとなる。

6. ペナルティマーク

ゴールラインへ直角の位置に2本のラインがあり、各ゴールポストの内側から11mの位置に描かれている。ラインは、競技フィールド内へ11mで、ゴールラインと平行に描かれている。これらのラインとゴールラインと平行に描かれているラインの範囲内がペナルティエリアとなる。各ペナルティエリアには、ゴールポストから9mの中間地点にペナルティマークが描かれている。半径7mの半円が各ペナルティエリアの外側に描かれている。

10. ゴール

両ポストの間隔は、5mでクロスバーの下端の距離はグラウンドまで2mとする。

第2条 ポール

IFAB サッカー競技規則の第2条が適用される。

第3条 競技者

IFAB サッカー競技規則の第3条が適用される。ただし、以下の例外を含む：

- 試合は7名以下の競技者からなる2つのチームによって行われる。そのうち、1名はゴールキーパーとする。いずれかのチームが4名未満の場合、試合は開始も継続もされないものとする
 - IFCPF クラス分け規則 (IFCPF Classification Rules) をいかなる時も遵守しなければならない
- 交代要員：

- いかなる試合においても、最大で3度までの選手交代の機会に、最大で5名までの交代を行うことができる
- 怪我による交代も、1機会として数えられる
- ハーフタイムの交代も、1機会として数えられる
- 両チームが同時に交代を行う場合には、両チームともに1機会の使用として数えられる

補足

競技者は、出場資格のある機能障がいを持ち、IFCPF のクラス分け規則と大会要項にしたがってCPサッカー競技大会への出場資格を満たさなければならない。

JCPFA 国内限定補足

- ・ 日本国内において、交代要員の数は各競技大会実施要綱に基づく。
- ・ 2018.1.1より変更されたIFCPFクラス分け規則では、FT1～FT3となるが、2018年度は旧クラス分けで判定は行う。ただし、新クラス分け移行期間を設けることとし、運用方法は各競技大会実施要綱に基づく。
- ・ 日本国内において、競技者は日本CPサッカー協会公認のクラシフィアヤーによってクラス分けされたFT5～FT8（新クラス分けはFT1～FT3となる）で構成される。国際クラス分けを受けた競技者は、国際クラスを適用する。
- ・ 各クラスのピッチ上の競技者人数について、旧クラス分けでは、FT5 or 6が2名以上、FT8が1名以下。新クラス分けでは、FT1が1名以上、FT3は1名以下となる。
- ・ FT5, 6/FT1の競技者が規定の人数を出場できない場合は6人（又は5名）で試合を行う。

第4条 競技者の用具

IFAB サッカー競技規則の第4条が適用される。

第5条 主審

IFAB サッカー競技規則の第5条が適用される。

第6条 その他の審判

IFAB サッカー競技規則の第6条が適用される。

第7条 試合時間

IFAB サッカー競技規則の第7条が適用される。ただし、以下を例外とする：

1. 試合時間

試合は、前半、後半ともに30分間行われる、大会要項に従い、両チーム合意の上であれば、試合時間を短縮することができる。

JCPFA 補足 ・日本国内において、各競技大会実施要綱に基づく

第8条 プレーの開始および再開

IFAB サッカー競技規則の第8条が適用される。ただし、以下を例外とする：

1. キックオフ・試合再開時

キックオフをするチームの相手競技者は、ボールがインプレーになるまで7m以上ボールから離れなければならない。

第9条 ボールのインプレーおよびボールアウトオブプレー

IFAB サッカー競技規則の第9条が適用される。

第10条 試合結果の決定

IFAB 競技規則第10条と下記例外が適用される。

3. ペナルティマークからのキック (PK)

上記に示してある条件に従って、両チーム各3回のキックが与えられる

・各チーム3回のキックを蹴る前で、どちらかのチームが先制している場合、そのチームが3回のキックを蹴り終わっていたとしても、追加でキックの機会とは与えられない。

・両チーム3回のキックを蹴り終わり、同点の場合、どちらかが得点するまでキックを続け、同じキック数で得点の多い方が勝ちとなる。

交代要員とペナルティマークからのキック

・審判はいずれかのチームが4名未満になった場合は、試合を放棄してはならない。

第11条 オフサイド

IFAB サッカー競技規則の第11条は適用されない。

第12条 ファウルと不正行為

IFAB サッカー競技規則の第12条が適用される。

第13条 フリーキック

IFAB サッカー競技規則の第13条が適用される。ただし、以下を例外とする：

2. 順序

ボールがインプレー状態になるまで、自身のチームゴールポスト間のゴールラインを除き、全相手競技者はボールから7m以上離れなければならない。

3. オフェンスと容認

フリーキックの際、相手競技者が定められた距離をとっておらず、アドバンテージが認められない場合は、再度やり直し。しかし、競技者が早いリスタートを行い、相手競技者がボールから7m以内の場所で、インターセプトを行なった場合、審判は試合続行を認める。しかし、故意的にリスタートを妨害するような振る舞いをした場合は、警告を受ける。

第14条 ペナルティーキック

IFAB サッカー競技規則の第14条が適用される。ただし、以下を例外とする：

1. 順序

キッカーとゴールキーパー以外の競技者は、ペナルティマークから7m以上離れていなければならない。

第15条 スローイン

IFAB サッカー競技規則の第15条が適用される。ただし、以下を例外とする：

競技者は、下からボールを転がし入れてインプレーとすることができる。転がして入れる場合、ボールはスローワーの手から離れてすぐ（1m以内）にグラウンドに触れなければならない

第16条 ゴールキック

IFAB サッカー競技規則の第16条が適用される。

第17条 コーナーキック

IFAB サッカー競技規則の第17条が適用される。ただし、以下を例外とする：

1. 順序

ボールがインプレーになるまで、相手競技者は7 m以上コーナーアークから離れなければならない